

術後の会ご報告

名古屋徳洲会総合病院 院長 大橋 壮樹

寒い日々が続きますが、皆様お元気でしょうか。

心臓手術後に、いつまでも徳洲会とつながりを持っていただくという趣旨で発足した「術後の会」も五年になりました。会員数は450名近くとなり、大きな会になりました。このことは当院職員にとりましても、大きな励みになります。

さて、昨年9月には第4回術後の会を勝川プラザホテルで行ない、180名近くのご参加をいただきました。懐かしい方々にお会いできて、楽しい思い出となりました。そして今年の秋も予定しておりますが、今年は中津川方面の旅館あるいはホテルでの開催を考えております。皆様のご意見ご要望等ご遠慮なくお聞かせ下さい。

また、当院のホームページには心臓血管病を理解しようと題して、心臓血管病についての解説、動脈硬化の予防の方法を公開しております。なお、メール医療相談も行っておりますので、是非ご利用ください。<http://www.nagoya.tokushukai.or.jp/>

本年も御指導ご鞭撻の程なにとぞよろしくお願い申し上げます。

そして、皆様のご健康とご多幸をお祈りいたします。



体験談

「手術をして元気になりました」

手術（僧帽弁形成術）を受けてまもなく三ヶ月になります。随分元気になり手術を受けたのが遠い昔のような気がします。思えば手術前はよからぬことをも考え、大きな不安がありましたが、ICUで麻酔から醒めつつある時、看護師さんの声を耳にし、「あっ生きてるんだ。」と安心しました。貧血もあり少々つらい思いをしましたが、手術後十八日目に退院し、二ヶ月後には大橋先生から「もう大丈夫。」と太鼓判を押され一気に元気になりました。

今は念願の水泳や、子供とかけっこができるようにと、少しずつ身体に負荷をかけ、生活リハビリに励んでいます。1ヶ月後にはもっと元気になっていることでしょう。

入院前から林師長さんに話を聞いていただいたり、入院後にはICU病棟のスタッフの方々・心臓外科の先生に本当によくしていただきここで手術をしてよかったなあと実感しています。たくさんの感謝をめて、“ありがとうございました”

私はかかりつけの病院の先生のすすめで、3月中旬徳洲会病院で手術を受けることになり、病院に行きました。建物の古さに戦後の事を思い出しました。でも、先生方や看護師さん方のやさしさを、うれしく思いました。

手術の後、首の痛いのと咳の止まらないのには困りましたが、今ではだいぶ楽になりました。一つ気掛かりな事は肺に水がたまっているとのこと。薬は頂いておりますが心配しております。

闘病記

6月3日徳洲会病院に入院。4日大動脈瘤手術。7月15日退院。その間42日、先生看護師さんを始め病院関係者の皆様方の手厚い治療と親切な看護により無事退院。

その後、紹介病院の外科に週通し順調に快復しつつあり、ひとえに皆様方の本当に親切な看護のおかげと感謝しております。ここ4年間に平成12年2月14日胆管結石により25日間入院。

平成13年10月19日直腸がんにて79日間入院。

平成15年6月4日大動脈瘤にて42日間徳洲会病院に入院。

3回手術入退院を、繰り返し各病院の皆様を命を救っていただき、又他に盲腸が破裂腹膜炎を併発、医院より病院へ緊急入院あり1回目の胆管結石は、胸部が時々痛く、かかり付けの医院では長く判らなく、入院2日前に脂汗をだして七転八倒、医院で各種点滴、数時間後落ち着き医院より病院を紹介されて即入院。各種検査後、開腹摘出手術でなく、カメラを挿入操作しての破石施術。2回目は胃の調子が気になり、今回は病院で診察を受け薬を載っていましたが、先生に「胃カメラの検査をしましょう。」と言われ検査を受けました。胃の中はきれいな桃色で腫瘍も無く無事放免。

次は腸の検査をしたところ直腸に悪性腫瘍が見つかり、入院。各種精密検査後手術は無事すみました。後が大変でした。鼻には管が挿入され、胃液排尿点滴等の処置其の他の治療に先生・看護師皆様に励まされて、排便排尿も順調とは言えないものの、回復に向かい自宅療養となり退院。

3回目は今回の大動脈瘤の手術。通常は2センチ径の動脈が5センチ径大きく膨らみ何時破裂してもおかしくないと心臓血管外科で検査手術をと紹介され、徳洲会病院で診察。検査の後の病状説明で大動脈瘤の径は1年で5ミリ膨らむとの事。すると、がんの検査時点は、径は4センチに膨らんでいたことになり、今まで破裂しなかったことに感謝。

今まで血管のことは考えた事も無く、レントゲン写真での説明で手術を決意して入院。がんの手術病状は世間話でよく耳にしたものの、大動脈瘤手術は耳にした事も無く開腹手術痕を退院後に目にした時、改めて大手術だったと実感し生かされて戴いたと感じました。現在は、外科・泌尿器・循環器と通院治療しています。

2ヶ月で入院前の状態近くまでに快復。手足の動きに不自由なく車の運転もでき、魚・肉・野菜何でもおいしく食事ができます。命の尊さを感じながら排便排尿他の障害を克服すべく頑張っています。

この世に生を受け、若い時は楽しく生かされてきましたが、年齢が加わるたびに世の關懷が身に付き、辛く苦しく悲しい日々もあります。しかし過ぎ去れば、みな楽しい感謝の思い出に変わり、日々の幸福に又こうして無事に生かされて頂いているのも皆様のお陰と世間様の励ましと支えによるものと、朝夕に感謝しつつ暮らしております。

「バイパス手術を受けて」

地元のかかりつけの先生に診療を受けた翌日、又不整脈を起こし、先生の言われた通り中津川市民病院へ救急車で運ばれ、そのまま入院となりました。

私は20年程前の56歳の時に、左冠動脈の閉塞による心筋梗塞を起こした時から、タバコは一切取りやめ、アルコール類も3年間は口にせずしていました。その後、アロエ・梅・カリン等の焼酎漬けをほんの少し飲み始めました。

心筋梗塞と診断されてからは食事の味付けは塩気なしの黒酢による味付けのもので、常にニトログリセリンをポケットに入れて持ち歩き、職場でも皆さんにその事を知っていて戴くように話し、緊急の場合でも対処していただくように頼んでいました。

その後、徐々に今度は右冠動脈も狭まっていたらしく、中津川市民病院でのカテーテル検査の結果、このままにしておけない状態で、バルーン治療を試みて下さったが不調に終わり、ここで大橋先生のことを知らされ、直ちに手続きを取っていただき、平成15年10月10日、名古屋徳洲会病院の救急車で入院しました。

10月17日には、大橋先生により左と右両方の冠動脈のバイパス手術を恐れることなく安心して行っていただけたことにより、私のたった一つしかない生命は蘇りました。

当日、午後10時、手術室へ入り、ドアが閉められる時まで記憶は切れませんでした。妻は、私の入院後、看護師長さんから「奥様、もう大丈夫ですよ。お疲れになられたでしょう。部屋に戻って休んでいてください。」と声をかけていただき、長男の嫁と二人、ぐっすり寝込んでしまったそうです。午後3時頃、看護師長さんから、「手術が終わって無事集中治療室へ移されました。お話がありますので来て下さい。」と連絡をいただきました。

ここで、大橋先生から「御主人は筋肉も大変柔らかく余病も何も無かったので、手術も思ったように出来、大成功でした。おめでとうございます。」と報告をいただきました。すると、私の母親の涙はなかなか止みませんでした。細かい話ですが、左冠動脈は100パーセント閉塞、右冠動脈が55パーセント閉塞していた事を聞かされました。その事を聞いて大変危険なところまで来ていたことの恐ろしさに、体の震えも止まりませんでした。

19日には、集中治療室から出ることができ、10月26日には、退院というスピードの治療生活でした。その時いただいた生活パターンの目標・標準表を比較し生活したら、目標よりいるんなこと事が出来て安心しました。

徳洲会病院を退院後3週間して、手術内容と、バイパス手術に使った血管の痕は、その後どのようになるのか聞きました。その結果、これからの生活の目途にも自信がわいてきました。

退院後、2週間後には地元の牽仕係、神社の氏子総代の会計事務を一日おきぐらいに出来るようになりました。正月過ぎの比較的暖かい日には、家の周りの外仕事も出来るようになりました。私の年齢や病後であることも、忘れるほど元気になり、周囲の人達を驚かす程です。

今度の手術を通して、医学や医術の進歩のすばらしさが少しわかったような気がします。何より大橋先生の医学力・医術力の偉大さにただ感謝の念でいっぱいです。

「カテーテル検査を早くやるべきだった」

私71歳男性、平成14年7月にカテーテル検査を昭和病院で受けることに決めましたが、初めての事、痛い様で恐ろしくなって平成15年10月29日まで延期しました。その間、薬を飲み続けましたが、益々苦しさが増し、平成15年9月に一度目まいがして倒れ、気が付いた時には、家族の顔が僕をのぞいていました。

数日後、役で山仕事に行き、山へ登っただけで苦しく死にそうになり、これではいけないとカテーテル検査を東濃厚生病院で10月29日に受けました。結果、加藤先生より「血管が三本細くなっているので手術をした方が良い。」と言われました。名古屋徳洲会総合病院の大橋先生は、名医で安心して手術をまかされると紹介状を書いていただき、11月14日に大橋先生を訪ね、手術日を決め、その日のうちに検査と、医療費の相談と、身障者手帳申請書の作成を行いました。

11月15日から19日まで、家で腹式呼吸・胸式呼吸・肩と腕と頭の体操・呼吸器で呼吸の練習をやりました。これは、後になって、やっておいて良かったと思えました。

20日に入院し、当日はゆっくり休養、21日昼から手術をしました。

今まで手術を受けたことが無く、不安と恐怖がありましたが、息苦しさを治して元気になりたくて、手術をしていただく事を決心しました。

集中治療室に入った事まで覚えています。全身麻酔が効いて眠っている間に終わっていました。全く苦痛も無く手術をしていただき、先生・看護師・スタッフの皆様にご心より感謝いたします。終わってみればカテーテル検査も思っていた程恐ろしいものではないと悟りました。集中治療室に4日間いて、次の日の昼から四階南病棟の個室に移りました。毎日、先生・看護師さんが体温・血圧・心音など回診にみえ、安心して入院出来ました。身体に付いていた管など順に取り外して自由な体になり、トイレにも行けるようになり、病院内を毎日3回歩くようにしました。私のこの姿を見て、見舞い客が、まだ寝ていると思っていて驚きました。

病院の食事は、はじめ何もかも甘過ぎて食べられず残しましたが、段々なれて残さず食べられるようになりました。以前、家で塩分を取り過ぎていたようで、今後は気をつけるように努めたいと思います。11月30日に退院でき嬉しかったです。今思えば、手術して本当に良かったです。退院後は、リハビリに歩く事に努めます。ありがとうございました。

15年3月のはじめ、心不全を起こし色々検査しました。結果、心臓の弁が菌に侵され一枚落ちていました。まさか、こんな病になるなんて、目の前が真暗になり、何度涙したことかわかりません。入院中の中津川市民病院の先生から「春日井に良い先生がみえる」と名古屋徳洲会総合病院を紹介されました。早速、病院に転院しました。病室に入ると、すぐ朝倉先生から色々説明を受け、1週間後手術を受けました。手術前の検査と呼吸リハビリ練習をして、手術前日には朝倉先生から、手術の説明と麻酔科の先生の説明等聞きました。そのお蔭で不思議な位、静かな気持ちで4月11日午後12時50分頃手術に室に入り、その後は何も覚えていません。目が覚めた時は、手術も終わり集中治療室でした。

手術後に熱が出て、喉がすごく渇いて氷を口にふくませていただき、とてもおいしく嬉しかったです。

手術から3日目には病室に戻りました。四階南病棟の師長さんをはじめ、看護師の皆さんに「お帰りなさい。」と声をかけられ、本当にうれしかったです。それから、気分の良い時は、一生懸命ナースステーションの周りを歩行練習しました。菌が死ぬ迄、日時がかかりましたが、5月2日退院の許可が出ました。

無知な私は、後から色々話を聞いて「大変な手術をして頂いたんだなあ。」と思いました。スタッフの皆さんのやさしい対応に随分心が癒されました。

9月には初孫の顔も見え、新しい年を迎える事が出来ました。大勢の方々の手で助けて頂き「ウーンと長生きしなくては」と思いがばっています。

